

重要文化的景観の事例紹介～農業関連の事例～

京都府立大学・文 上杉和央

○生業としての農業

生業：農・林・水産・牧畜・工芸・鉱山・流通・販売・サービス・etc.

⇒現在、重要文化的景観のなかで圧倒的に多いのは農業にかかわる景観。

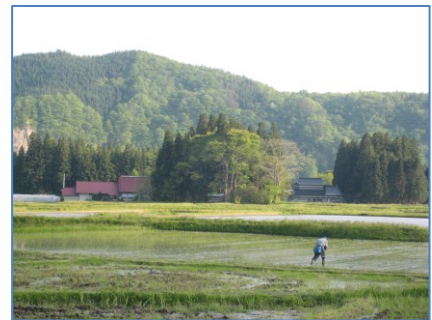
※自然との関係が分かりやすい

⇒なかでも、水田耕作に関する景観地が多数を占める。

○事例紹介

事例1 一関本寺の農村景観

- ・岩手県一関市
- ・全国で2番目に選定を受ける（平成18年7月28日選定）
- ・中尊寺の荘園として展開。荘園図の世界。
- ・世界遺産も絡みつつ…
- ・圃場整備をめぐって地域が混乱
 - 地域らしさを改めて知る
 - 地域の誇りの「気づき」



事例2 田染荘小崎の農村景観

- ・大分県豊後高田市
- ・平成22年8月5日選定
- ・中世の荘園展開時から、集落の位置などに変化がない。山と集落と水田と川（水）の関係。
- ・来訪者向けの案内施設もあり。



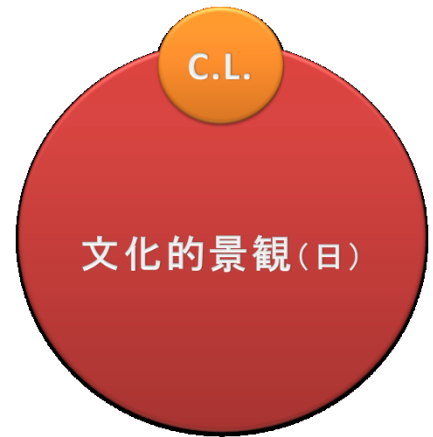
事例3 遊子水荷浦の段畑

- ・愛媛県宇和島市
- ・平成19年7月26日選定
- ・半農半漁という生活スタイル
- 畑地の生産物：雑穀→サツマイモ→桑
 - サツマイモ（エタノール）→じゃがいも
- ※価値＝スタイル（×生産物の連続性）
- ・活用の担い手



○重要文化的景観を目指すとは？

- ・世界遺産における Cultural Landscape
⇒人間と自然との相互作用によって生み出された景観
- ・文化財保護法における文化的景観
⇒「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」
※美しさではない！

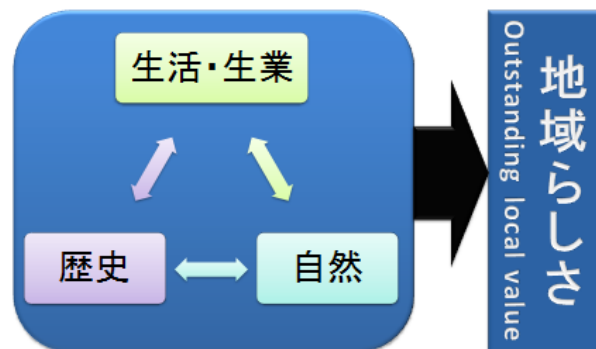


○地域らしさ

- ・文化的景観≒地域らしさ
⇒地域住民が「地域らしさ」に誇りを持つこと(outstanding local value !)
- ・地域らしさ
地域住民 : 当たり前で気が付かない
外側の人間 : 気づきやすい
→ 「内」と「外」の協働による確認

○「地域らしさ」の析出

- 自然 例) 地質・地形・水系・生態・気候・降水
- 歴史 例) 生業(土地利用)の変化・集落(形態・構造)の変化・交流史
- 生活・生業 例) 現在の生業形態・土地利用・道具・場所認識・祭祀・祭礼



○過去・現在・未来

- 文化的景観：動的(過去～現在～未来)
※過去～現在に即した評価を、現在～未来にどう活かすか。
※文化財系・生業(農林水産)系・計画系の実質的・有機的な連携が不可欠
⇒「地域らしさ」を活かした地域づくり
⇒行政の大きな転換・チャンス

